



地域医療センター
地域医療連携通信

4

APR. 2008
Vol. 30

● 外来診療時間 ●

午前8時30分～正午
午後1時～午後4時30分
(休診日)
土・日・祝日



『鳥インフルエンザ(H5N1)発生時の患者移送訓練の様子』

目次：CONTENTS

- 2 特集1：高知医療センターの
3 スペシャルな医療行為のご紹介

- 4 特集2：高知医療センターでの
5 初期臨床研修を終えて一研修医手記

- 6 第12回高知医療センター職員による学会出張報告

- 7 地域医療連携病院のご紹介

- 8 高知医療センター イベント情報

高知医療センターの基本理念

患者さんが主人公の
病院をめざして

1. 患者さんが主人公の病院にします
2. 高度な医療を普段着感覚で提供します
3. 自治体病院としての使命を果たします

平成20年4月1日発行
にじ 4月号(第30号)
責任者：堀見 忠司
編集人：地域医療連携広報委員
特別編集委員
発行元：高知医療センター
地域医療連携本部
印刷：共和印刷株式会社

高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL:088(837)3000(代)



高知医療センターの 「スペシャルな医療行為」 をご紹介します！

高知医療センターでは、一般的な医療以外に通常の病院ではできないブランディングとも言えるスペシャルな医療をいくつか行っています。それらの医療は、『えっ！高知医療センターではこんな医療もやっているの？』と言われるような医療もあります。そこで当院で行われているスペシャルな医療を「日本で有数」、「中国・四国で有数」、「四国で有数」、「高知県で有数」の順にランク付けして、ここに紹介いたします。

また、高知医療センターは県や国の指定医療機関として、総合周産期母子医療センター（高知県では唯一）、基幹災害医療センター（高知県では唯一）、第1種、第2種感染症指定医療機関（四国で唯一）、救命救急センター（高知県では2施設）、地域がん診療連携拠点病院（高知県では3施設）、地域医療支援病院（高知県では3施設）、歯科臨床研

修指定病院（高知県では2施設）、医科臨床研修指定病院（高知県では10施設）、へき地医療拠点病院（高知県では7施設）、その他にもいくつか当院の医療が指定され、高知県の医療を守っています。

更に日本で初めて、看護局では高知女子大学と看護連携型ユニフィケーションが取り組まれ、栄養局ではフードサービスと臨床栄養管理の統合情報システムを開始しました。

私達は高知医療センターで行われているスペシャルな医療をより広く、深く県民・市民に知っていただき、皆さまが誇れる高知医療センターをめざして、安心できる医療情報をここに発信します。

高知医療センター病院長
堀見忠司

<p>1. 移植外科 診療内容：腎移植手術（死体腎・生体腎） 特徴：県内唯一、死体腎移植も可能 症例数：10例以上 ランク：四国で有数</p>	<p>9. 小児科 診療内容：小児心エコー検査 特徴：小児循環器科の専門医療 症例数：1,100～1,200例 ランク：高知県で有数</p>
<p>2. 医療技術局 診療内容：HLA検査センター 特徴：県内唯一、組織適合検査可能 症例数：約30例 ランク：高知県で有数</p>	<p>10. 小児科 診療内容：超未熟児(1,000g以下)の入院治療 特徴：NICUの専門医療が盛ん 症例数：約15例 ランク：四国で有数</p>
<p>3. 脳神経外科 診療内容：脳血管内治療（破裂脳動脈瘤に対する塞栓術） 特徴：日本脳神経血管内治療学会専門医による治療 症例数：約100例 ランク：四国で有数</p>	<p>11. 小児外科 診療内容：小児外科・新生児外科治療 特徴：県内唯一、小児外科認定施設 症例数：200例以上 ランク：高知県で有数</p>
<p>4. 眼科 診療内容：小児・成人の斜視、眼筋麻痺手術 特徴：斜視の専門治療 症例数：50～60例 ランク：高知県で有数</p>	<p>12. 泌尿器科 診療内容：先天性心臓カテーテル治療 特徴：小児循環器科の専門医療 症例数：8～10例 ランク：四国で有数</p>
<p>5. 腎臓科 診療内容：腎炎・ネフローゼ症候群の治療 特徴：腎臓専門医療が盛ん 症例数：腎生検約80例以上 ランク：高知県で有数</p>	<p>13. 泌尿器科 診療内容：前立腺肥大症に対するレーザー蒸散術・核出術 特徴：特殊なレーザー治療が盛ん 症例数：約30例 ランク：四国で有数</p>
<p>6. 小児科 診療内容：小児心臓カテーテル検査 特徴：小児循環器科の専門医療 症例数：35～40例 ランク：高知県で有数</p>	<p>14. 消化器外科 診療内容：腹腔鏡による腹部手術 特徴：高知県における特殊な内視鏡腹部手術の草分け 症例数：約190例 ランク：高知県で有数</p>
<p>7. 小児科 診療内容：先天性心臓カテーテル治療 特徴：小児循環器科の専門医療 症例数：8～10例 ランク：四国で有数</p>	<p>15. 消化器外科 診療内容：内視鏡的腎摘出術 特徴：高知県における特殊な内視鏡腹部手術の草分け 症例数：17～20例 ランク：高知県で有数</p>
<p>8. 小児科 診療内容：胎児心エコー検査 特徴：小児循環器科の専門医療 症例数：80～100例 ランク：四国で有数</p>	<p>16. 化学療法科 診療内容：固形がんの外来化学療法 特徴：高知県におけるがん化学療法の草分け 症例数：約200例以上 ランク：高知県で有数</p>

<p>17. 放射線科 診療内容：埋没形中心静脈カテーテル（CVリザーバー）設置術 特徴：圧倒的な数を誇り、患者さんに好評 症例数：約350例 ランク：日本で有数</p>	<p>27. 整形外科 診療内容：上位頸椎 特徴：ナビゲーションシステム使用した困難な手術 症例数：約10例 ランク：四国で有数</p>
<p>18. 放射線科 診療内容：動注リザーバー留置術 特徴：難度の高い難しいIVR手術 症例数：約10例 ランク：中国・四国で有数</p>	<p>28. 整形外科 診療内容：脊椎内視鏡 特徴：特殊な手術で、多い症例数 症例数：約25例 ランク：四国で有数</p>
<p>19. 放射線科 診療内容：IVR治療 特徴：圧倒的な症例数で減黄術や拡張術に威力発揮し、肝胆膵の医療に大きく寄与 症例数：約1,000例 ランク：四国で有数</p>	<p>29. 整形外科 診療内容：骨盤外傷 特徴：ヘリコプターで救急部に出向き、外傷初期から携わるジャワ島やフランスに招聘 症例数：20～30例 ランク：四国で有数</p>
<p>20. 放射線科 診療内容：胆道メタリックステント留置術 特徴：全国で2番目に開始した草分けで指導的立場 症例数：約20例 ランク：中国・四国で有数</p>	<p>30. 整形外科 診療内容：肩や膝の関節鏡を使った内視鏡手術（特に肩） 特徴：特殊な手術で、多い症例数 症例数：約50例 ランク：四国で有数</p>
<p>21. 循環器科 診療内容：ICD（植込型除細動器） 特徴：植込みの資格を有するのは県内唯一 症例数：約10例 ランク：高知県で有数</p>	<p>31. 救命救急科 診療内容：ヘリコプター搭乗救急医療 特徴：救急患者搬送の新たな取り組み 症例数：約220回 ランク：四国で有数</p>
<p>22. 循環器科 診療内容：CRT（両心室ペースメーカー） 特徴：植込みの資格を有するのは県内唯一 症例数：約10例 ランク：高知県で有数</p>	<p>32. 地域医療科 診療内容：多地点遠隔テレビウェブ会議 特徴：県内のへき地診療所とへき地医療拠点病院を結ぶブロードバンド網があり、多地点遠隔ウェブ会議を利用した症例検討会や遠隔画像伝送などに活用 件数：毎月1回 ランク：四国で有数</p>
<p>23. 循環器科 診療内容：CRT-D（除細動機能付き両心室ペースメーカー） 特徴：植込みの資格を有するのは県内唯一 症例数：約10例 ランク：高知県で有数</p>	<p>33. 栄養局 診療内容：フードサービスと臨床栄養管理の統合情報システム 特徴：ITによる統合情報システムを利用した栄養管理 ランク：日本で最初</p>
<p>24. 循環器科 診療内容：不整脈に対するカテーテル・アブレーション 特徴：不整脈治療で大変有名 症例数：約70例 ランク：四国で有数</p>	<p>34. 看護局 診療内容：高知女子大学とユニフィケーション 特徴：高知女子大学と高知県・高知市病院企業団との国内初めての提携 ランク：日本で最初</p>
<p>25. 心臓血管外科 診療内容：低侵襲心拍動下冠動脈バイパス手術 特徴：人工心肺を使用せず、心臓も止めずに心拍動下に狭心症や心筋梗塞の冠状動脈に血行再建を行う手術 症例数：約70例 ランク：中国・四国で有数</p>	<p>35. 薬剤局 診療内容：全入院フロアおよびICUに常時臨床薬剤師の配置 特徴：全病棟の薬剤師管理 ランク：四国で有数</p>
<p>26. 整形外科 診療内容：脊椎手術 特徴：困難な手術の圧倒的な症例数 症例数：約250例 ランク：四国で有数</p>	

高知県指定医療機関

- 総合周産期母子医療センター〈県内で唯一〉
- 地域医療支援病院〈県内で3施設〉
- 医科臨床研修指定病院（管理型、協力型）
〈県内で10施設〉
- 歯科臨床研修指定病院（管理型、協力型、単独型）
〈県内で2施設〉
- へき地医療拠点病院〈県内で7施設〉
- 地域がん診療連携拠点病院〈県内で3施設〉
- 基幹災害医療センター〈県内で唯一〉
- 救命救急センター〈県内で2施設〉
- 基幹災害拠点病院〈県内で7施設〉
- 第1種、2種感染症指定医療機関〈四国で唯一〉
- 特定不妊治療指定医療機関〈県内で6施設〉
- エイズ治療拠点病院〈県内で5施設〉
- 高知県神経難病医療ネットワーク拠点病院
〈県内で2施設〉

高知医療センターでの初期臨床研修を終えて

高知医療センターで2年間の初期臨床研修をされた研修医の先生方が研修を終えられます。その2年間の研修を終えての感想をご紹介します。



(藤原学)

早いもので医師免許をいただいてから2年が経とうとしています。社会人として2年目ということで、医学的な事例以外にも「社会人としてどう振舞うべきか」ということを、この2年で教えられることも多かったように思います。特に研修医の業務は指導医から受けた指示を看護師さんや技師さんに伝えないといけなことが多いので、そこでいわゆるインシデントが生じないようにしなければなりません。日本語の曖昧さも手伝って苦労することが多かったように思います。

現行の初期臨床研修の制度上、2年目は院外での研修が多くなります。また、2年目に研修医代表の重任を任せられることになり、院外での研修先から夜な夜な医療センターに戻ってきたりなど、更に苦労が増えましたが、おかげ様でいろいろな意見を取り入れていただくことができたと思うので、1年間代表を務めた甲斐は多少あるのではと自負しています。

研修としては、科によりますが全体的にまずまず忙しい部類に入ると思います。症例が多く、手技の経験を積極的にさせていただいたり、研修医の意見を聞いてくださる環境はやりがいを持ってるので良いと思いました。ただ、惜しむのは自分にとっては忙しすぎて、図書や文献にあたる時間が十分になく、その症例のみではなく疾患や病態に幅広く対応できる医学的知識を積み重ねることができたかという疑問が残ります。そんな2年間でした。



(松本のぶ)

2年間の研修を終え、研修病院を選択する上で大切なことは、症例数が豊富であるかどうかだと改めて実感しました。ある症状を持って患者さんが目の前に現れた時、どれだけたくさんの鑑別疾患が思いつくかということが正しい診断を導き出す上で重要だと思うのですが、本で得ただけの知識ではなかなか思いつかないことが多いものです。しかし、高知医療センターには県下から多くの患者さんが集まり、あらゆる疾患を実際に経験することができるので、自然と自分の引き出しを増やすことができました。

2年間という短い間ではありましたが、これまでの経験が活かせる時が必ず来るだろうと思っています。また、指導医の先生方はやる気さえあれば学ぶ機会をいくらでも与えてくださり、熱心に指導してくださいました。中には患者さんに対する心構えや医師としてどうあるべきかを熱く語ってくださった先生もおり、今後もその先生の言葉を忘れることなく精進していきたいと思っています。2年間ありがとうございました。



(小川愛由)

この原稿を書いているのは研修医募集活動の病院合同説明会に参加した直後です。そこに参加している学生と触れ合うと2年前の自分の姿を思い出しました。

今、長いようで短かった2年間の研修を終えようとしています。来年度からのことを考えると不安な気持ちでいっぱいなのですが、多くの科では先生方の熱心な指導の下、十分な研修をさせていただくことができたので、何とかできるだろうと言いつけています。また、同じ研修医の人達と一緒に勉強したり、夏休みのキャンプや誕生日会などのイベントを行ったり、とても楽しい時間を過ごしました。2年間、皆と一緒に研修できて本当に良かったと感じています。私を含め数人は後1年引き続き高知医療センターで研修、他は様々な場所へ羽ばたいて行くので、個々人がそれぞれの場所で輝いて

いけることを願います。



(尾崎友昭)

2年間の研修を終えての印象は、どの科も症例は大変多かったです。軽症から重症まで幅広く診ることができたように思います。できたばかりの病院ということもあり、研修内容、システムについて自分達でいろいろ考えたり話し合ったりしながら作っていくという面白さもありました。自分は地域医療をやっていきいたいという考えを持っていて、各科の先生方もそれに合わせて教えていただいたので勉強になりました。同期の研修医もたくさんいて、困ったことなどについて相談しやすい環境だったのも良かったと思っています。研修とは直接の関係はないのですが、皆でキャンプ場に飲みに行ったりしたのは良い思い出です。



(宮川貴弘)

高知医療センターでの2年間の研修を終えるにあたって、医療センターで学んだことについて述べます。1年目で特に印象的であったのは、救急科での研修で、めまい、擦過傷等の軽症例からくも膜下出血や多発外傷等の重症例まで経験できたことです。特に中毒患者さんを診ることができたことは非常に貴重な経験でした。また、消化器外科では、様々な手術に多く入ることができ、他院ではなかなかこれだけの症例を経験できないのではないかと思います。2年目の研修では、循環器科で虚血性心疾患から、心筋炎、バルサルバ洞動脈瘤といった珍しい症例も経験できました。最後にペインクリニック科では、漢方処方や鍼の施行を行い、実際に治療効果もあることを確認できました。

症例を数多く経験できたこともさることながら、医師の鏡ともいえる先生方、人間的に尊敬できる先生方にお会いできたことが、何よりも大きな収穫であったと思います。2年間、ご指導いただいた先生方や他職員の方々、同僚の研修医の皆に感謝したいと思います。医療センターで研修できたことを誇りに思います。



(中村知志保)

振り返ってみると、忙しい中であっという間に2年間の初期臨床研修が終わっていました。高知医療センターでは多くの先生方が忙しい中でも、研修医に積極的にたくさんの知識や技術を教えてくださいました。先生方の姿をみて、臨床医として必要な姿勢やあり方を肌で感じ、学ばせていただいたと思います。多くの診療科を研修すると、各科で行っている治療が実際どのようなものなのか、他科で患者さんを診る時はどのようなことに気をつければいいのかなどを経験することができ、今後に繋がる有意義な研修になったと思います。病棟や救急の現場で多くの方を診させていただくこともでき、患者さんからもたくさんのお言葉をいただきました。人生の先輩である患者さんから、良い医者になるための心構えを覚えていただいたり、心温まる素敵な言葉をかけていただいたことは、本当に嬉しく励みになりました。また、医師に限らず多くのスタッフの方々に、それぞれの分野について教えていただき、医師の視点だけでなく、チーム医療についても学ぶことができたと思います。

多くの人と出会いがあったことは、広い視野を持つことに繋がりが、私自身、人として成長できたのではないかと感じています。謙虚に、誠実に、今後も一生懸命やっていこうと思います。



(岩佐瞳)

2年前に高知医療センターにて、初期臨床研修を開始したことがついこの間のように感じますが、この2年間で様々な科をローテーションし、たくさんの方の事を教えていただき、非常に有意義な2年間であったと思います。研修開始当初は何もわからず戸惑うことも多々ありましたが、各科における代表的な疾患や検査についてはもちろんのこと、患者さんおよびご家族との接し方、ルート確保、採血を始めとした基本的な手技など、基礎的なことから教えていただき、徐々に積極的に研修に取り込むことができたように思います。また、精神科および地域医療研修では、院外に出て他の病院や診療所、保健所にて研修を行う機会があり、医療センターだけでなく地域の病院・診療所の先生方、また保健所の方々とも接する機会を得ることができ、大変良い経験となりました。今後もこの初期臨床研修2年間で学んだことを活かして、3年目からの後期研修にも取り組んでいきたいと思っています。



(足田高祐)

ありきたりな表現ですが、長くもあり短くもあった2年間でした。研修開始の頃はもちろん、今も大小様々な失敗を繰り返し、上司に多大な迷惑をかけてしまいました。それでも大きく落ち込んだりせず、むしろ楽しみながら2年の研修を終えることができたのは、優しく、根気強く、しんどい時も自らに鞭打って自分の背中を医師のあり方を示す上司がたくさんいたからだだと思います。

長らく県外で生活してきた私が高知に帰ってきて、高知の人の柄の良さを再認識するのに時間はかかりませんでした。高知県であるからか、この病院であるからかは全ての病院研修、情報収集ができるわけではないのでわかりませんが、研修医が大事にされているというのは実感してきました。私のような優秀でない者も、その他の優秀な人も、それぞれのペースで2年の研修を終えることができたと思っています。これから学ぶことがたくさんありますが、真摯な気持ちを忘れず研鑽したいと思っています。



(井上智雄)

医師として働く初めての2年間の研修を高知医療センターで過ごさせていただきました。各科における研修では、様々な症例を経験できたのみならず、多くの素晴らしい先生方にご指導いただき、また、多くの同僚と共に学ぶことで、医師として今後働いていく上での心構え、めざすべき医師像について考えさせられた研修生活でした。私生活におきましても、この期間に結婚、子供の出産という人生の大イベントを経験し、充実した日々を送ることができました。時に忙しく、しかし、伸び伸びと研修をさせていただけた医療センターでの研修は、自分には非常に居心地の良いものでした。まだまだ医師としてはスタートラインを出発したところですが、この研修で得たことを糧に、これからも高知の医療に貢献していければと思います。



(所谷知穂)

高知医療センターでの研修生活を始めてから、あっという間に2年が過ぎました。初めての担当患者さんに医師としての責任を感じやる気が沸いたこと、慣れない医療行為に緊張の連続であったこと、退院した患者さんからお礼の手紙をいただくうれしかったこと、死に直面し、自分の無力さを何度も痛感したこと……。多くの患者さん、そして指導医の先生方、周りの医療スタッフの皆さんから、机上では得がたいことをたくさん学びました。

右往左往した2年間、悩んだ時や迷った時に支えあった研修医仲間には本当に助けられ、彼らの存在に刺激を受けながら、自分なりに少しは成長できたのではないかと思います。レジデ

ントルームや食事に行った時、いつしか話題はそれぞれの経験した症例のこととなり、疑問をぶつけあったり、知識を教えあったり、とても貴重な時間でした。研修2年目の途中から産休に入ったため、5ヶ月間の研修を残していますが、今後は同期の皆に早く追いつけるよう、母親業共々、一步一步着実に成長していきたいと思っています。



(奥井将之)

高知医療センターは症例数が非常に多く、一般的な症例から珍しい症例まで多数経験することができ、多くのことを学ぶことができました。診療科によっては、多数の手技を経験することができました。地域医療では、医療センターでは経験することができない、まさに地域に密着した医療を経験することができ、非常に勉強になりました。医療センターは診療科による壁がなく、いつでも気軽に専門の先生に相談することができ、教えていただくことができました。医師免許を取得して、まだ何もわからない状態から親切に指導していただき、少しずつではありますが自分が成長していくのを実感することができました。時には家に帰れず、眠れないほど忙しい時もありましたが、非常に有意義な研修ができたのではないかと考えています。最後になりましたが、2年間どうもありがとうございました。



(森本浩之)

私は出身県の旧高知医科大学(現高知大学医学部)を卒業後、初期臨床研修をここ高知医療センターでさせていただいています。研修を終了しようとしている今になって、あまりの時間の流れの速さに戸惑っています。多くの不安と共に始まった研修生活でしたが、十数名の同期及び先輩研修医に囲まれ、切磋琢磨しながら忙しくも充実した研修を送ることができて幸でした。

2年間で救急症例を中心に、数多くの救急患者さんと向き合い、また、指導医の先生の下で積極的に診療に加わっていくことができました。その中で経験を重ね、疾患についての理解を深めることや手技を身に付けることはもちろん、地域の先生方やかかりつけの先生方との医療連携の重要性を感じるようになりました。急性期で治療を完結できることは少なく、その後のフォローアップ、再発予防といったことが治療効果を左右するのだと思います。常に縦、横の連携を心がけながら診療していきたいと思っています。初期臨床研修を終え、これから専門の科での診療を開始する予定ですが、ここで学んだ経験を今後の糧として、更なる精進をしていきたいと思っています。



(門田直樹)

高知医療センターでの2年間の初期臨床研修では、有意義な研修生活を送らせていただきました。医学部を卒業し、2年前の4月に辞令を受けた時には、自分が果たして2年間の研修において医師として成長できるのかどうか、不安でいっぱいでしたが、今、その頃の自分と比べると、成長できたのではないかと思います。もちろん、医師としてまだまだ未熟であり、これからも更たくさんを学び、経験していきたいと思っています。

地域連携という点においては、患者さんを紹介していただき、受け入れる側として2年間研修してきましたが、4月からは私自身が地域医療に従事することになります。今度は、患者さんを紹介させていただく側の立場になるため、医療センターで研修をさせていただいたことは、大いに役立つのではないかと思います。2年間の研修で学んだことを活かして、更にステップアップしていきたいと思っています。最後に、2年間の研修においてお世話になった方々に厚く御礼を申し上げるとともに、今後ともよろしく申し上げます。

第12回：医療センター職員による学会出張報告



高知医療センターの医師はいろいろな学会に参加していません。そのなかから、学会レポートをご紹介します。

第6回日本臨床腫瘍学会 平成20年3月20～21日 in 福岡

血液・輸血科 上村 由樹



(会場前にて)

平成20年3月20日(木)、21日(金)に第6回日本臨床腫瘍学会が福岡国際会議場で開催されました。専門外のがんの研究や治療を網羅する臨床腫瘍学会は、日々の血液がん(リンパ腫や白血病等)の診療を、がん医療全体の視点から見る良い機会を与えてくれます。

がんは死亡率の第1位を占め、年間約30万人の方ががんで亡くなっている事実をうけ、厚生労働省は、対がん10ヵ年計画のスタート、がん診療連携拠点病院の設置、がん対策基本法の施行、がんプロフェッショナル養成プランなど、がん医療の充実化を矢継ぎ早に図り、がん医療水準の均てん化を図っています。地域による医療水準の病院間格差をなくすため、施設水準、組織構築、ネットワーク構築と整合性、マンパワーなどの充実はもちろん、がん専門医の育成が最も重要な課題と考えられています。しかしながら、本邦の臨床腫瘍学教育は基盤が脆弱で、臨床腫瘍学の専門医師が育ちにくい土壌であったと言えます。日本臨床腫瘍学会は、臨床腫瘍学に関する総合的な教育を第一目的としており、がん治療全般の最先端の知識や技術を、地方にも都会と同様に提供できるエキスパートを育てる目的で設立されました。平成18年度に初めて、日本臨床腫瘍学会は、がん薬物療法専門医を輩出しました。高知県では、まだがん診療連携拠点病院である高知医療センター・腫瘍内科の辻晃仁先生お一人ですが、今後専門医が徐々に増え、がん治療の地域連携が十分に機能を発揮することが期待されます。

日本癌学会、日本血液学会などからも、臨床面、研究

面における血液がん治療の最先端の知識を得ることはできませんが、日本臨床腫瘍学会は、外来化学療法室の立ち上げ、改革案など、施設運営にまつわるものが多いのが特徴です。ここ数年の各施設のがん診療への積極的な取り組みが垣間見られます。ポスター会場では、外来や病棟で治療に難渋されている患者さんの顔を思い浮かべ、何か診療にプラスになるものはないかと歩き回りました。教育講演では、九州がんセンター・サイコオンコロジー科の大島彰先生が、医師のコミュニケーションスキルの重要性を紹介されていたのが印象的でした。

医師は最新の知識や技術を十分にコミュニケーションを取って提供する必要があります。また、患者さん、ご家族が十分理解しないまま転院されますと、転院先での治療に不満を覚え、患者さんばかりでなく、転院先にもご迷惑をおかけすることになります。最先端の専門的知識や技術を磨くことはもちろん大切ですが、コミュニケーションスキルの向上もまた、がん治療を専門にする医師には重要です。特にこれから臨床腫瘍医をめざす研修医の方々には、十分指導すべき点だと再認識しました。

今回の日本臨床腫瘍学会は、九州大学医学部血液内科の原田実根(前)教授が会長をされ、日本血液学会との合同シンポジウムが開かれました。また、来年度は名古屋大学医学部血液内科の直江知樹教授が会長をされる予定であり、本学会に対する血液内科の積極性が伺えます。臨床腫瘍学会の認定したがん薬物療法専門医には、血液内科医はまだ数少ないですが、今後、この専門医資格は重要なものになってくると思われます。

今回、腫瘍内科の辻晃仁先生、放射線科の秦康博先生、がん専門薬剤師の宮本典文先生、がん専門看護師の池田久乃さんとご一緒させていただきました。いつも学会には一人で出向き、夜はコンビニですませているのですが、今回は学会終了後、皆で中洲の屋台街に繰り出しました。まだまだ夜ともなると肌寒い季節ですが、大勢の観光客でごった返していました。なにはともあれ、屋台定番のビールと焼き鳥とおでんを注文しました。そのアットホームな雰囲気も手伝って、ついつい飲みすぎてしまいましたが、最後はとんこつラーメンで、たっぷりと博多の夜を満喫させていただきました。



特定医療法人仁生会 三愛病院

〒781-8130 高知市一宮西町1丁目7-25
 電話：088(845)5291 FAX：088(845)5611
 URL：http://homepage2.nifty.com/jinseikai/san-ai/cont4.html

(診療科)

内科、整形外科、外科、肛門科、小児科、耳鼻咽喉科、放射線科、皮膚科(美容皮膚科)、リハビリテーション科

(附属施設)

介護老人保健施設「あうん高知」、グループホーム「いろは丸」、指定通所介護事業所デイサービス「いろは」、居宅介護支援事業所「一宮」、ホームヘルパーステーション高知、高知市北部地域高齢者支援センターいっく出張所、通所リハビリテーション「デイケア・ファイト」、院内保育室「ありんこルーム」



左から元吉ひとみ看護部長、今城恵里さん、山本明公子さん

特定医療法人仁生会三愛病院は、昭和50年11月に開院しました。三愛病院は3病棟からなっており、病床数は障害者施設等98床、介護療養型医療施設48床で合計146床です。内科、外科、小児科、皮膚科、放射線科が常勤で、整形外科、耳鼻咽喉科、が非常勤になっています。肛門科、リハビリテーション科は外科の医師が診ているので毎日診察をしています。今回はソーシャルワーカーの今城恵里さん、山本明公子さん、看護部長の元吉ひとみさんにお話を伺いました。

Q：貴院についてお聞かせいただけますか？

A：昨年の7月より一般病床は障害者施設の基準を取得しました。現在、意識障害のある寝たきり状態の方や、手足に麻痺のある方などをお引き受けさせていただいています。主には重度の方が対象となり、ご家族の要望を考慮した上でスタッフ共々患者様のケアについてカンファレンスを開催するなど、できる限りでの個別対応に取り組んでいます。

また、地域に根ざした病院づくりをめざし、日頃より当院外来をご利用いただいている地域の方々への支援も大切にしております。

Q：貴院の特徴あるものの一つは皮膚科ですね。

A：昨年の4月に皮膚科を開設し、一般診療を行う皮膚科外来と入院、また月曜日と水曜日の午後、美容皮膚科を完全予約制で診療しています。ニキビにお悩みの方やシミへの対処など、治療方法には担当医師が相談に乗らせていただいております。また、褥瘡に関しては皮膚科と外科とで診療しており、手術をせずに保存的療法で治療を行っています。治癒率も上がってきています。

Q：小児科の患者さんは多いですか？

A：多いです。この地区には保育園が7ヶ所と多く、小学校も当院に隣接しています。また、3ヶ所の園医、1ヶ所の校医をしています。当院の小児科医は1名なので外来のみの診療となっています。

Q：総合相談室についてお聞かせください。

A：ソーシャルワーカーが3名おり、三愛病院担当2名、あうん高知担当1名で相談業務を行っています。あうん高知が併設されているということで、三愛病院内の空床

管理だけではなく、あうん高知に空床があれば、三愛病院の外来患者様でもあうん高知のショートステイに繋がれたりしますので、3名で情報を共有しながら対応しています。

Q：地域の医療機関から患者さんを受ける立場として何かありますか？

A：急性期の医療機関から当院に転院されてくる際に、ご家族が聞いて来られた情報とギャップがあり、戸惑われる方も少なくありません。最初の時点でできるだけ当院の説明を細やかにさせていただき、ご理解をいただいた上で入院していただくようにしています。

Q：今後の目標はありますか？

A：1階に相談室が移ったので、外来患者様などとコミュニケーションがとりやすくなったと感じます。当院は全ケース、受け入れの前にソーシャルワーカーと病棟看護師長がご家族と面談を行いご家族の意向を確認しています。延命治療についてや在宅に戻る際のご希望など、ご家族の要望にできる限り添えるようにお話をお聞きしています。これからも患者様やご家族の満足に向けて力を入れていきたいと思っております。介護病棟に関しても3ヶ月単位でご家族とお話をさせていただいていますが、患者様の思いを集約し、どこまでできるかを考え、患者様やご家族にもご理解いただけるように対応していきたいと思っております。

お忙しいなか取材にご協力いただきありがとうございました。



高知医療センター イベント情報

日	曜	4月～
4/18	金	高知医療センター医療安全管理研修会(★) 場所：高知医療センター2階 くろしおホール 時間：18:00～
23	水	循環器病センター循環器疾患講義(★) 場所：高知医療センター2階 くろしおホール 時間：18:00～19:00 お問い合わせ：高知医療センター 循環器科 判場圭一
24	木	糖尿病患者会「高知かなえの会」4月例会 場所：高知医療センターI階 研修室 時間：17:30～18:30 お問い合わせ：高知医療センター 代謝・内分泌科 深田順一
26	土	高知県病理研究会 場所：高知医療センター2階 くろしおホール 時間：16:00～ 講座内容：症例発表 自由参加 ※参加者には事前に資料(病理標本を含む)を配布します。また、演題が2例以下の場合、流会(次月持ち越し)となりますのでご了承ください。 お問い合わせ：高知医療センター 病理診断科 沼本敏/高知大学医学部附属病院 病理診断部 弘井誠
28	月	第29回高知医療センター救命救急センター救急症例検討会 場所：高知医療センター2階 くろしおホール 時間：17:30～ お問い合わせ：高知医療センター 救命救急センター
5/26	月	第30回高知医療センター救命救急センター救急症例検討会 場所：高知医療センター2階 くろしおホール 時間：17:30～ お問い合わせ：高知医療センター 救命救急センター
6/上旬	未	恒例・図書まつり (医学、看護、その他医療関係の図書を展示・即売) 場所：高知医療センター2階 なるほどライブラリ 時間：未定 お問い合わせ：高知医療センター なるほどライブラリ 橋田圭介
15	日	第26回日本臨床外科学会 高知県支部会 ※講演内容等の詳細は決まり次第ご連絡いたします。 場所：高知医療センター2階 くろしおホール お問い合わせ：高知医療センター
7/6	日	第4回高知医療センター地域医療(内科系)症例報告会 場所：高知医療センター2階 くろしおホール 時間：10:00～12:00 お問い合わせ：高知医療センター 地域医療センター 深田順一

※時間等、変更になる場合もございます。ご了承ください。(★院内職員向け)

お知らせ：画像 Viewer soft のマニュアルをインターネットに掲載しました！

高知医療センターの画像診断部門で実施した放射線検査画像(一般撮影、X-TV、CT、MRI、核医学検査、血管造影)を、CD出力した際の画像、Viewer soft簡易マニュアルを、高知医療センターホームページ(地域医療機関の皆様へ)内に掲載しましたので、ご利用ください。
(医療技術局 画像診断部)

編集後記

春爛漫のこの時期に「にじ」は創刊より今回で第30号となりました。この季節は共に力を合わせ仕事をしてきた仲間との別れ、また、胸に希望を抱きお迎えする新たな仲間との出会い。いろいろと変化の多い季節です。高知医療センター開院4年目に入った今、職員一同心を合わせ患者さん及びそのご家族、地域の先生方をはじめ職員の皆さんと、質の高いコミュニケーションの輪を広げていきたいと願っています。私の初心である「もし、この患者さんが自分の家族だったら・・・」という気持ちで、ご意見・ご要望を聞かせていただいています。まだまだ自分のコミュニケーションの弱さを痛感していますが、私が今できることをできるだけ早く、精一杯取り組んでいきたいと思えます。今後ともよろしくお願いたします。
(まごころ窓口 重軒貴子)



広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見等をお寄せください。renkei@khsc.or.jp
 Kochi Health Sciences Center Home Page :http://www2.khsc.or.jp/